兒童心理學（第八講）

牛島義友

劣等感にもとづく性質（二）

前回は子供の劣等感に基く性質として補償作用等を中心にして述べたが、劣等感があれば必ず強く反撥するとは限らない。反抗的態度は、意志の強い意地張つた子供に見られるが、意志の弱い子供、或は何度か反撥してみたけれども巧くゆかなくていぢけてしまふ子供も澤山ある。斯る子供は最も安易な路として自分一人の世界にこぢ籠る樣になる。今回は斯る消極的な形で自身防禦をやるものについて述べる。

孤立化　幼稚園や學校に行つても友と一緒に遊ばうとせず、一緒に遊戯やゲームをするよりも本を讀んだり一人で出來る遊びをしようとしたり、同年の子供よりも年少の子供と遊ばうとしたりする子供。又遊びも勉强もしようともせずぐづ〳〵した子供、いつも傍で傍觀してをる子供、無理に仲間に入れようとすると厭がり、人の前で何かさせようとすると直ぐ赤くなつたり青くなつたりする樣な子供。或はぼんやりし放心した樣な狀態で時を過してをる子供。斯る子供の態度は種々な原因から來るが最も多いのは强い慢性の不安から來てをる。卽ち初めは色々とやつてみて自己防禦を試みた譯であらうが、何回も失敗したために、新しい防禦法を構ずるよりも、寧ろ身を引こうとする樣になつたものである。或は又餘りに嚴格な訓練のためにいじけてしまつて斯んな子供になる事もあるし、又身體が弱いために友達と活潑な遊びをせず一人で本でもよむ習慣がついて斯くなる事もある。ごこの幼稚園にも斯る型の子供がるるが、保姆や先生からは比較的輕くあしらはれてをる。積極的にいたづらをしたり、無理を言つたり、反抗する子供は直ちに先生の目につき困つた子供として大騒ぎされるが斯る內氣な孤立した子供は他の者の邪魔にはならず、おとなしくしてをるので教師から氣付かれるのも遲いし、氣付いても餘り問題とせず放置しがちである。併し精神衞生的にみると實は斯る子供の方が問題であり、厄介である。

積極的な子供は自分を開いて人と接し、教師の教へや暗示にも從つてゆくが、斯る積極的な子供は自己を閉鎖してゐて、先生や親の言ふ事や、影響を受入ようとしない。從つて教育指導する事が極めて困難である。又斯る子供は先生の質問に對しても中々答へようとせず、知つてゐても返事をしない。それで先生から低能ではないかと間違へられる事さへある。斯るものを僞似精神薄弱と言ふ。

拒否症　前のものはおとなしく小さくなつてをるが、更に激しく自己を人々から分離させ、人々からの働きかけを拒否し、反抗する樣になるものがある。或十一歳になる女の子は一向に、親教師の言ふ事をきかず、始終他の子供と喧嘩ばかりしてをり、學校に行つてもォーバーを脱がうとせず。他處に行つてお坐りなさいと言はれても坐らうとせず、問はれても頑として口をきかない。この子は智能も少し劣り、家庭も良くなく、背柱彎曲して歩き方が變であり、其上顏が醜いときてゐた。斯る事の爲に著しく劣等感を懷く樣になり、而も母親の教育態度も誤つてゐたために斯る子供になつたのである。彼女は自分の馬鹿さや失敗をかくす唯一の手段として一切の刺戟を拒否し、何も言はぬ事にしてをるのである。

空想癖　之は力に對する要求、劣等感の補償を實際に滿す事が出來ないために、非現實的な空想の世界で自己の希望を滿足させようとするものである。之は最も容易な方法であるので誰でもとる傾向である。大人の人は自分の都合のよい樣な希望的觀測をして樂觀しようとするし、青年は白晝夢に耽つてゐ、子供は空想的遊びをしたり、想像の友に話しかけて樂しんだりすることの態度が激しくなると困つた性質になつて來る。學校の負擔が重過ぎたり、餘り六ケ敷しい宿題が出されると遂に自ら解決する能力を止めてしまつて、茫然と机の前に坐つて時を費してしまふ。斯る場合の空想の世界では、この現實の敗殘者が英雄になつて、自分の希望を實現させたり、或は自分の出世や成功の爲に他人の失敗や死を願望したり、或は自分を世間から誤解され迫害されてをる偉人の樣に思ひこんだりする。

斯る空想癖の困る點は、第一に時間の空費であり、第二に現實に成就しなくとも滿足してしまひ、努力が乏しくなる事、第三は空想の結果自分一人で勝手な世界を作り、ロマンティクな世界を夢見てゐるために現實に接してひどく失望したりする。例へば結婚生活に入つて、夢が破れて悲しむ如く。

退行現象　新しい場面に巧く適應する事が出來なかつた場合に過去に於て成功した遣方に戻らうとする。一つ前の段階に於て成功した手口を、複雜な場面にも應用しようとするものである。卽ち成長した子供が子供つぽい態度や、

赤ん坊の眞似等をする事がある。例へば次の子が生れたために、今までの樣に手をかけてもらへず、色々な事を自分でしなければならなくなつた子供が、急に赤ん坊らしい行動をする樣になつた。例へば床に倒れても起上らうとせず、泣き乍ら起てないから起して等と言つたりする。或は次の赤ん坊が生れた爲に今まで出來てゐた排泄の習慣がこはれる事が屢〻ある。青年の場合だとホーム・シックの形をとる。家庭を離れて寮や下宿の生活に移ると、新しい獨立的な態度をとらねばならぬが、それが愉快にとれない時に、昔の家庭生活が一層したはしくなる。

斯る退行現象には親の態度も責任がある。親が子供をいつまでも子供あつかひして、獨立性を養つてやらないと斯る傾向が助長される。斯る子供は積極的に努力する事を止めようとするので精神發達が遲れる恐れがある。

恐怖症　以上の孤立や空想位ではまだ大して問題にもならぬが、之が更に昂じると恐怖症にまでなる事がある。卽ち自分の劣等な點に關し常に氣になり、それが人から衝かれる事を恐れてをる爲に恐怖症にまで昂ずるのである。この恐怖症は一般に精神が不安狀態にあると言ふのでなく、特定の對象に對して恐怖が現れて來る。

例へば或女の人は眼に對して激しい恐怖を持つてゐて、人の顏をまともに見る事が出來ず、人にものを言ふ時は何時も相手の視線をそらして言ふ。久しい間この目に對する恐怖症を持つてゐたが、最近は特に著しくなり、夜は恐しい眼をして見詰める人の夢をみてうなされたり、無意識の中におゝ怖い目等と口走つたりする樣になり、其爲に學業もはかどらず、社交性もなくなり、孤立してしまつた。

或心理學者が之を治療するために精神分析をしてみた。卽ちこの恐怖と關係のありそうな事柄を色々と想ひ出させてみた。併し之と關係のありそうな事件は仲々思ひ出せなかつた。やつと四回目の分析の時に或事件を想ひ出した。それは彼女の十二歲の時に見た映畫である。或狂人が逃亡して飛行機を窃み、客を乘せたまゝ飛出した。其時の狂人の荒々しく見つめる眼が想ひ出された。併しこの經驗は恐怖の眞の原因とは考へられないので、更に記憶を逆上らせた。すると一週間後に次の事を思ひ出した。卽ち七歲の時、或日親類の家を訪問した事がある。そこには盲のお婆さんがゐた。子供の事であるので其家の戶棚の抽斗をそつと開けてみた。處が其中に殆んど眞物の樣なぎら〳〵光る目玉が入れてあつた。之は盲のお婆さんの義眼であるが、それを見て彼女はひどく吃驚した。後年になつてこの事を告白する時さへひどく興奮し涙を流し乍ら話した程である。而してこの事は今まで誰にも話した事の無い事ですと言つて打明けた。これで眞の恐怖の原因に突き當つた譯である。從

つてこの治療法はこの出來事を繰返して想ひ出させる方法をとり、何時も意識させ、之は何も恐ろしがる事でも、恥づべき事でもない事を納得させてやつた處が、この恐怖はとれて行つた。

斯く幼時の特殊な經驗が原因して恐怖症を起す事があるが、其特色としては、

1、小兒期に起つた激しい恐怖的經驗から來る。

2、その出來事は抑壓されてしまつて、普通は想ひ出せなくなつてゐる。

3、その事件は多く、羞恥或は罪惡の意識を起させるので自ら口にしようとせず、考へようともしない。この事が劣等感と同じ働きをする。

4、初めは特殊な事から生じたものであらうが、段々他の同一種類のものに波及してゆく。

5、しかし之を強ひて想ひ起さす事によつてこの恐怖症は直つて來る。

斯る點が特長であるが、就中恐怖症を起すに重大な點は抑壓されてゐる事である。幼時に激しい恐怖を經驗しても、其事を祕密にする事なく、其場で親に訴へるなりしてをれば恐怖症は起らない。子供らしい考へから恥しいとか惡いだ事と思つて一人心の中に祕めてをくと、假令自分は忘れてゐても恐怖症の原因になる。

精神分析に於ては凡ゆる抑壓觀念は性的なものと關係があると言ふが、之は必ずしも正しくない。性と關係がない場合でも恐怖症は起る。併し性的なものが最も恐怖症の原因になり易い事は認めねばならない。何とならば性的なものは抑壓され易いし又恥や罪惡感と結び付くからである。

以上の外に更に劣等感から來る病的症狀が色々あらうが、餘りに專門的になるからこれ位にしてをく。

斯の樣に劣等感が色々な性質の子供を作つたり、困つた子供にしてしまふので、其對策、教育にも充分注意しなければならない。斯る場合、症狀や徵候に對する對症療法的な教育治療法は殆んど役に立たない。眞の原因をつきとめて、夫を根治する方法が一番效果がある。其爲には專門の教育相談者や精神病學者に相談する必要がある。